

「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」
報告書とりまとめに向けての意見

堀田聰子

欠席ばかりで申し訳ありません。

報告書のとりまとめにあたって、以下の点についての言及の検討を希望します。

1. 質の高いサービスの安定的な供給に向け、(本検討会では十分に議論が尽くされる時間がないと考えられる) 介護関係職種に求められる役割及び専門性について、継続的な議論の場がもうけられる必要があること。
2. 上記の議論にあたっては、(高齢者を例にとれば) 介護保険が果たすべき役割、介護保険でカバーすべき最低限の生活(=ケアミニマム)の合意に基づいた検討が欠かせないこと。
3. (本検討会は介護福祉士に至るまでの諸研修の関係整理等を踏まえた介護福祉士に至るキャリアパスの在り方を提示するが、) 地域包括ケアの深化に向けても、将来的には介護・看護・リハビリテーション等関係職種が共有すべき部分について、職種横断的な基礎教育を行うといった方向性に関する議論の余地があること。
4. (いかなる段階でいかなる研修を想定するにせよ、) 研修カリキュラムを固定せず、求められる介護のあり方及び実践の進化をフィードバックする仕組みの構築が求められること。

学びの機会の確保や支援に加え、常に研修内容がリフレッシュされ、質の高いケアの提供に向けたスキルアップが実現できるものであることは、研修受講への意欲も高めうる。

例えば当事者や家族、地域住民、介護医療福祉関係職種だけでなく、大学や専門学校等の教育期間が参画して「ケアの標準化」をはかり、学習に結びつけるサイクルを構築するなどが考えられる。